

川崎市洪水ハザードマップ 宮前区版



「意識と準備が命を守る！」

洪水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨によって河川が氾濫した場合の、洪水浸水想定区域や避難場所を示したものです。



洪水から身を守る

① 洪水発生メカニズム

Diagram showing the process of flooding: heavy rain leads to overflowing rivers, then water breaks through levees, and finally floods buildings.

② 洪水浸水想定区域の考え方

- すべての浸没点(堤防が決壊すると想定したところ)について、どう浸水し浸水するかを予想します。
すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。
実際は、それのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、徐々に深くなります。

③ 都市型水害について知る

- 大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいため、川や水路、下水道に一気に集ります。そのため、次のような危険があります。
(低地の浸水)
低地や溜水のアンダーパースでは地下水が起り、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。
(地下への浸水)
地下が水没すると、
①水までアツクれない
②一層水が流れ込む
③外の排水がからず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

④ 洪水から身を守る

- 洪水の危険が迫った際には、川崎市から対象の地域に避難を呼びかけます。
お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、右ページの判断フローを参考に、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討しておきましょう。

⑤ 雨の降り方と災害発生との関係

Table with 3 columns: 1時間雨量, 状況, 災害発生確率の目安. It details the relationship between rainfall intensity and the likelihood of various disasters like landslides or flooding.

かけ崩れから身を守る

① 土砂災害警戒区域

Diagram illustrating landslide risk areas, including steep slopes, water accumulation, and evacuation routes. It shows how heavy rain can trigger landslides and the importance of staying in designated safe zones.

② 急傾斜地崩壊危険区域

Diagram showing evacuation routes from steep slopes to safer areas. It emphasizes the need for prompt evacuation when warnings are issued.

③ かけ崩れからの避難

- 土砂災害警戒区域の中にあるときに、避難に関する情報が発表されたときには、たちまちに安全を確認することが必要です。
このとき、天候やご自身の状況により、柔軟に行動を変えることができるよう、次の方法を参考に、適切な避難場所の確保などの準備しておくことが大切です。

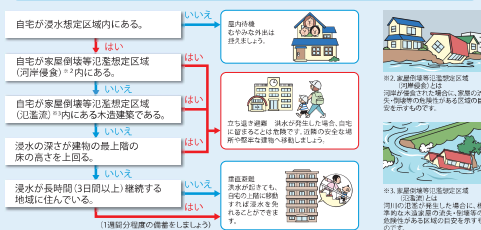
⑥ 避難に関する情報

Color-coded boxes for evacuation information: 避難準備・高齢者等避難開始 (green), 避難勧告 (orange), 避難指示(緊急) (red). Each box explains what actions are required.

⑦ 水位に関する情報

Table showing water level categories and their corresponding emergency actions. Categories include 1.5m rise in river level, 1.5m rise in ground level, and sea level rise.

⑧ 状況に応じた避難行動



< 屋外に避難するときの注意点 >

- 動きやすい服装を心がけ、靴はセモで締められる運動靴を履くようにする。
避難先は足を取られないため重要です。
避難所に向かう途中で身の危険を感じた場合は、避難所に限らず近くの安全な場所や建物へ一時避難所を判断する。
身体用品 (飲料水、食料、貴重品など) は、リュックサックなどに入れ、両手が使えないようにする。
やむを得ず浸水している場所を移動する場合は傘、杖などを用意する。
※浸水している場所は、蒸気漏れたマンホールや水路、網線などの配線路の塩害等があり、足元の安全確保が必要です。

< 助け合い(共助) >

- 近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人、または旅行者などと一緒に避難することが難しい方がいます。近ごろから近所でのコミュニケーションをとり、避難の際は、近隣の方と声をかけ合い協力しながら避難しましょう。

日頃の備え

① 家庭備蓄の充実

- 災害時には、ライフライン機能の低下など機器機能の低下が考えられます。
このため、各家庭で最低3日間、出来れば7日間、自宅で過ごせる用意をしましょう。
(飲料水) 飲料水は1人1日3リットル必要です。
(食料) お米や乾菜、缶詰などは、日持ちのするものなるべく多く用意しておきましょう。
(その他) カセットコンロ(ボイラーも可)、簡易トイレ(汚物処理機)などを用意しておきましょう。

② 非常持出品チェックリスト

Checklist for disaster supplies including water, food, medicine, communication devices, and other essentials.

③ 施設内排水設備の定期的な点検

- 「雨水流出抑制施設」は大雨の時に雨水を一時的に貯留して下流へ少しずつ流す重要施設です。
落ち葉やゴミが詰まっていると水を排水できなくなるため、普段から点検をお願いします。
排水溝や道路側溝も路面排水を適切に行うための役割を担っています。

Diagram showing the importance of regular maintenance of drainage facilities and how debris can cause blockages, leading to flooding.

ハザードマップの使い方

A grid of 7 numbered sections explaining how to use the hazard map: 1. Find your home, 2. Confirm evacuation locations, 3. Safe evacuation routes, 4. Actual evacuation routes, 5. Family disaster response, 6. School/neighborhood response, 7. Complete your family disaster memo.

我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう！！

① 自宅の災害リスク

● 地図を確認して、該当するところに○印を記入しましょう

Map of flood risk levels with categories: 浸水無し, 0.5m未満, 0.5~3.0m未満, 3.0~5.0m未満, 5.0~10.0m未満, 10.0~20.0m未満.

② 避難方法

- 「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう
(洪水からの避難)
□室内待機 □立ち退き避難 □垂直避難 □屋内待機 □垂直避難 □水平避難

③ 避難場所と避難経路

● 避難方法が決まったら、避難場所と避難経路を確認しましょう

Diagram showing evacuation routes from a house to designated safe areas and the importance of confirming these routes.

④ 非常持出品

● 非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう
(保管場所)

⑤ みんなの約束

● 家族やご近所での約束事を記入しましょう
(家族の約束事)

Diagram showing the importance of family and neighborhood agreements and cooperation during disasters.

風水害時に役立つ情報

① 川崎市防災情報ポータルサイト(川崎市ホームページから)

- 市内の災害に関する緊急情報、被害情報、避難情報などを掲載します。
①市からの備えや、川崎市の防災メールなども紹介しています。
②外からの防災に関する防災メールの備え、かわさき®ポータルを紹介しています。
③過去10年間の浸水実績を公開しています。

② かわさき防災アプリ

川崎市の公式アプリのサービス「かわさき防災アプリ」では、災害時の緊急情報や避難情報などをプッシュ通知で受けられるほか、最寄り避難所や各種ハザードマップを見ることができます。

③ メールニュースかわさき

- 川崎市から、市内の防災、気象、災害等の情報をメールでお知らせします。
● 配信希望する方は右記のメールアドレス (携帯電話・スマートフォン用URL) 宛に空メールを送信してください。

④ 防災行政無線・防災テレホンサービス

- 防災行政無線とは、屋外にあるスピーカーから、市民の皆様に避難情報や防災気象情報をお知らせするものです。
● 防災行政無線の放送内容は、電話でも聞くことができます(通話時は発信放送が流れます)。
0124-910-174(通話料なし) 県内の一括加入電話
044-245-8870(通話料あり) 携帯電話、PH.S、県外の一括加入電話・公衆電話から

⑤ 国土交通省 京浜河川事務所 河川の防災ページ

- 多摩川・鶴見川の浸水想定区域、家屋倒壊等危険浸水想定区域、氾濫シミュレーションなどを見ることができです。
● カメラ画像や水位・雨量等の情報を、国土交通省・神奈川県・川崎市等のHPで見ることができです。

⑥ その他

- 気象庁ホームページで警報・注意報発表の予測を確認することができます。
● ツイッター(アカウント: kawasaki_bousai)、緊急通報メール、地上デジタル放送、ケーブルテレビ、かわさきFM(79.1MHz)などで、情報を発信します。

⑦ 緊急連絡先

Table listing emergency contact numbers for various departments: 避難に関する (044-200-3682), 緊急通報 (110), 浸水浸水想定区域等に関する (044-856-3114), 消防署 (119), 避難経路(避難所)・避難所(川崎市) (044-200-3902), 消防署・河川 (119), 土砂災害警戒区域等に関する (044-200-3035)

洪水ハザードマップ(宮前区版)の変更について

洪水ハザードマップについて、平成30年3月の作成以降、法令の改正などにより記載内容に変更が生じております。ご覧の際は、最新の情報をご確認ください。

①避難情報の変更

災害対策基本法の改正により、令和3年5月20日から避難情報が変わりました。これに伴い、洪水ハザードマップ(情報面)の一部を変更しました。



(情報面)

避難情報と防災関係情報

警戒レベル	避難行動等	避難情報等	防災関係情報		
			水位	洪水	降雨
5	既に災害が発生又は切迫している状況です。命を守るための最善の行動を取りましょう。	緊急安全確保 (川崎市が発令)	氾濫の発生 または切迫	氾濫発生情報	大雨 特別警報

＜警戒レベル4までに必ず避難！＞

4	危険な場所から全員避難しましょう。	避難指示 (川崎市が発令)	氾濫危険水位	氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
3	避難に時間を要する人（ご高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (川崎市が発令)	避難判断水位	洪水警報 氾濫警戒情報	大雨警報
2	避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報等 (気象庁が発表)	氾濫注意水位		
1	災害の心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)	水防団待機水位		

②土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域の変更

土砂災害防止法に基づく「土砂災害警戒区域」・「土砂災害特別警戒区域」及び急傾斜地法に基づく「急傾斜地崩壊危険区域」を神奈川県が指定(変更)しています。最新の区域は、県ホームページをご確認ください。



〔神奈川県土砂災害
情報ポータル〕

URL : <https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>

③水位計・カメラの追加

最新の水位計・カメラの設置箇所については、市ホームページをご確認ください。



〔川崎市ホームページ
水位計・カメラ〕

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000107830.html>

○お問い合わせ先

洪水ハザードマップ全般に関すること	建設緑政局道路河川整備部河川課	044-200-2902
避難に関すること	総務企画局危機管理室初動対策担当	044-200-3682
土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域に関すること	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	044-932-7211

(令和3年6月)